

## 書評

金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男 総編集

### 内 科 学

自治医科大学学長

高 久 史 麿

医学書院から最近刊行された金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男 4 氏の総編集による『内科学』の書評を頼まれ, お引き受けしたところ, 早速『内科学 I・II』が私の事務室に送られてきたが, まずその量が膨大なのに驚いた。執筆者の数も同様に膨大である。

その内容を見てみると, I 巻の I の「社会の中の内科学」の見出しが目にとまった。確かに医学は理系の学問のなかでは社会との接点が最も幅広い学問分野であり, そのなかで内科学が中心である事は周知の如くである。その意味で内科学書の最初の項目として, こ

の様な幅広い問題を取り上げた事は高く評価されるべきであろう。

次の II の「内科学の進歩」では最近の医学の進歩を内科学を中心にまとめて紹介している。この事も本内科学書の新しい試みであると考えられる。

次に系統ごとの疾患の項目を見てみると, 本内科学書の各系統の最初に感染症を持ってきた事, しかもその内容が従来のわが国の内科学書よりもより充実したものになっている事が注目された。近年民族間の国際的な交流が盛んになり, SARS や鳥インフルエンザ等の新たな感染症の国際的な広がりが大きな話題になっている事,

医療の安全と関連して院内感染症が問題になっている事等の昨今の状況を考えると, この試みは時宜を得ているという事ができるであろう。また各系統の疾患の記載の最初には「理解の為に」という項目が必ず設けられ, 各系統の疾患の総論的な事項が紹介されている。内科学という広範な領域を一冊の本でカバーしようとするならば, この様な系統ごとの総論的な記載は当然なされるべきである。

私はこの書評を書くに当たり, 総編集の方々による本書の序文を読ませていただき, 皆様方のこの内科学書に対する意気込みと同時に, 完成までのご苦勞を十分に汲み取る事ができた。

本書の完成に貢献された諸氏のご尽力に敬意を表する次第である。

〔A4変型 頁3268 2006年  
定価33,600円(本体32,000  
円+税5%) 医学書院刊〕